

情報公開用文書（医学部で実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

西暦 2018年10月6日作成

研究課題名	初期アルツハイマー病バイオマーカーの探索
研究の対象	アルツハイマー病（AD）および他の疾患で亡くなられた方の死後剖検脳
研究目的 ・方法	目的：アルツハイマー病の初期の脳の変化を見出すことにより早期発見の方法を確立すること。方法：アルツハイマー病剖検脳における免疫組織化学およびウェスタンブロット解析によるタンパク質定量解析
研究期間	西暦 2019年 1月 4日 ～ 西暦 2019年 9月 30日
研究に用いる 試料・情報の 種類	研究に用いる試料：アルツハイマー病および他の疾患で亡くなられた方の剖検脳から作製された組織標本および未固定組織片。情報の種類：脳組織のタンパク質の分布と量
外部への 試料・情報の 提供	外部への試料：外部への試料の提供は行わない。情報の提供は、研究で得られた知見を専門誌に公表することによって行う。
外部からの 試料・情報の 取得と保管	本研究で解析する検体は、外部である東京都健康長寿医療センターから供与を受けるものである。情報の取得および保管は、横浜市立大学と東京都健康長寿医療センターとが行う。
研究組織	五嶋 良郎（横浜市立大学大学院医学研究科 薬理学 教授）の研究の実施、統括の元、脳検体の供与を研究協力者の村上繁雄参事研究員から受け、その解析を、同研究室の増川太輝助手が主として担う研究組織体制とする。
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>	

情報公開用文書（医学部で実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市立大学 医学部医学研究科 薬理学 （研究責任者）五嶋 良郎

電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-787-2593

アルツハイマー病は難治の認知症状を呈する慢性疾患であり、その対応は急務です。現在のところアルツハイマー病の診断は症状に基いて行われます。しかし、症状の認められない段階での早期の発見と介入の重要性が指摘されています。なぜなら症状が現れる段階では神経の変性がある程度進行しており、より早期に発見してその進行を防ぐ手立てを講じる必要があるからです。早期段階の発見に向けて、今まで脳内や脳脊髄液中の A β 、タウ、FDG などのバイオマーカーを利用した診断基準確立が提唱されています。しかし、アルツハイマー病初期の脳内病変の実体は依然として不明です。アルツハイマー病の原因として最も有力な A β の蓄積やタウ蛋白質の変化は、神経変性と平行、あるいは結果として起こる現象です。従って、従来の検出方法では、臨床症状を呈さない段階での発見は依然として困難と考えられます。私たちは、この課題に挑戦し、より早期の変化を示すマーカーの探索を行うことにより、従来の欠点・問題を克服したいと考えており、この点に本研究の意義があります。すでにアルツハイマー病モデルマウスの初期において、プロテオーム解析という方法でアルツハイマー病に関連すると思われるタンパク質の探索を行い、いくつかの候補分子を見出しつつあります。これらの知見を踏まえ、さらにアルツハイマー病脳における解析を行うことは、マウスでなくヒトの脳内で実際に起こっているかを確認する上にも、またアルツハイマー病の早期診断法を見つけて行くためにも重要な取り組みです。